International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 13　No.3　2012 年　6 月

鷺の宮卓話

信頼できるから信頼するのではない

研究所長　太田敬雄

学会の懇親会の席での話です。おそらく教育談義か何かをしていた時でしょう。何に対してこんなことを言ったのか記憶にありませんが、私が「信頼できるから信頼するのではない。信頼するから信頼できる人になる。」と言うようなことを言いました。とたんに、海外から参加しておられた外国人の先生が「それ、良い！もう一度いってください。」と言いながらノートを取り出してメモされました。

その先生のその一言で、何気なく漏らした自分の一言が私の脳裏に焼き付けられました。人は叱られて育つよりも褒められ、認められ、信頼されて育つ。そんな当たり前のことを、私はこうやって再認識させられました。

先日の事です。テレビでは介助犬を育てる話が放送されていました。犬でも同じなのですね。褒められ、可愛がられ、認められて介助犬として育っていく。人が見るとそれは「ただの遊び」の域を出ない。しかし、その遊びの中で実にすばらしい成長を遂げていく。

そのテレビ番組からもう一つ教わったことがありました。アイコンタクトの重要性です。犬を訓練するには先ずしっかりと目を合わせることから始まるそうです。それがお互いへの信頼の表現だとか・・・。そう言われて気付いたことがあります。それは以前にこの「卓話」に書きました握手で終わる授業の事です。

私はこう書きました：「毎時間、授業の終わりに握手をするだけで、クラスの雰囲気が大きく変わってくるのだ。学生との距離感がなくなる。そして、授業中の学生の姿勢も変わり、積極的に発言する学生が増えてくる。私自身も学生に親しみを感じるのだが、学生も普通の授業ではなかなか見られない教師との一対一のつながりを感じるようになっているようだ。人と人が触れ合う中で、マニュアルに沿った「効率の良い」授業では起こり得ない人としての成長があるのだと思う。」

この時私が気付いていなかったことは『アイコンタクト』の重要性でした。英語圏の握手をするのだから、目を見る。目を見て、自分らしい一言を私に話す。これはすべて英語式のあいさつが何時でもできるようになることを目指した、広い意味での英語文化圏への対応ができようにとの試みでした。しかし、そこに信頼関係構築の基礎があったとは！驚きですが、経験的に納得できます。

私たちの日本文化の「礼儀」はそれなりに日本の形を構築してきたものでしょう。しかし、その「目を合わせない挨拶」の形式こそが日本の形式・様式に必要以上にこだわり、なかなか心のつながりをつくることが出来ない文化的な原因なのかもしれないと思わされます。

目を合わせて、信頼する気持ちを伝えると、若者たちに限らず人の反応は驚くほど変わる。明らかに親しみが生じてくる。明らかに人生が広がる。試してみてください。

総会報告・小坂景子弁護士との対談など、ご報告すべきことが山ほどあります。

今年も例年のように 5 月 26 日（土曜）に総会を開催しました。会員の皆様のご協力を得て無事昨年度の報告と新年度の行事計画、予算の承認をいただきました。本来ですと今号でご報告すべきところですが、詳細は次号に掲載いたします。

この夏は 5 名の若者をインドネシアから招聘します。ホストファミリー、ご寄付、食事ボランティアなど、可能な形でお支え下さい！

特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3

℡:027-382-5998　FAX:027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

HP：http://www8.wind.ne.jp/mthc

まなぱるブログ：

http://manapal.gunmablog.net/e80854.html

郵便振込口座番号：00510-0-61974

名称：国際比較文化研究所